

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2000-264361

(P2000-264361A)

(43)公開日 平成12年9月26日 (2000.9.26)

(51)Int.Cl.⁷

B 6 5 D 59/00

識別記号

F I

B 6 5 D 59/00

テ-マコ-ド⁸ (参考)

A 3 E 0 6 6

審査請求 未請求 請求項の数3 O L (全5頁)

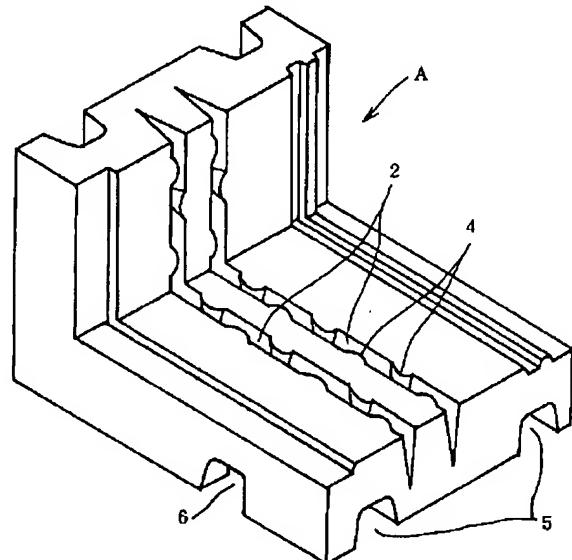
(21)出願番号	特願平11-74660	(71)出願人	000000033 旭化成工業株式会社 大阪府大阪市北区堂島浜1丁目2番6号
(22)出願日	平成11年3月19日 (1999.3.19)	(72)発明者	井尾 彰 東京都千代田区有楽町1丁目1番2号 旭化成工業株式会社内
		(72)発明者	杉森 望 東京都千代田区有楽町1丁目1番2号 旭化成工業株式会社内
		(74)代理人	100096828 弁理士 渡辺 敏介 (外1名)
			Fターム(参考) 3E066 AA04 BA01 CA01 DA01 FA13 HA01 KA20 NA29

(54)【発明の名称】 サッシ用保護材

(57)【要約】

【課題】 サッシの外枠もしくは窓枠のコーナー部に宛てがわれるサッシ用保護材について、緩衝性能に優れていると共に、繰り返し使用に耐え、しかもサッシに擦過痕を付けにくいものとする。

【解決手段】 発泡倍率が5~45倍、圧縮強度が0.069~1.08 MPaのポリオレフィン系ビーズ発泡体で、サッシの外枠もしくは窓枠のコーナー部に宛てがうことのできるL字形に構成する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 発泡倍率が5～45倍、圧縮強度が0.069～1.08MPaのポリオレフィン系ビーズ発泡体で、サッシの外枠のコーナーに宛てがうことができるL字形に構成されており、外枠へ宛てがわれる内側コーナー面に、外枠の外周に突出する取付用フランジ部が差し込まれる差し込み溝が形成されており、内側コーナー面とは反対側の外側コーナー面には、外枠の周方向に巻き付けられる止めバンドを収容するバンド溝が形成されていることを特徴とするサッシ用保護材。

【請求項2】 差し込み溝が、断面V字形をなしていると共に、長さ方向に沿って左右交互に、内側に平面円弧状の突出部が突出しており、しかもこの突出部の前面が、差し込み溝内に垂直に立って、差し込み溝の上端から深さ方向中間部に亘って突出していることを特徴とする請求項1記載のサッシ用保護材。

【請求項3】 発泡倍率が5～45倍、圧縮強度が0.069～1.08MPaのポリオレフィン系ビーズ発泡体で、引き違い型又は扉型サッシの窓枠のコーナーに宛てがうことができるL字形に構成されており、窓枠へ宛てがわれる内側コーナー面に、窓枠のコーナー部を収容する受け凹部が形成されており、内側コーナー面とは反対側の外側コーナー面には、外枠の周方向に巻き付けられる止めバンドを収容するバンド溝が形成されていることを特徴とするサッシ用保護材。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明が属する技術分野】本発明は、窓や間仕切り等に使用されるサッシの輸送時にこれを衝撃から保護するためのサッシ用保護材に関する。さらに詳しくは、サッシの外枠もしくは窓枠（通常ガラス付）のコーナー部に宛てがわれるサッシ用保護材に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、サッシ用保護材として、段ボールと発泡スチロールを組み合わせて、サッシの窓枠等のコーナー部に安定して宛てがうができるようにしたものが知られている（特開平7-330011号公報）。また、発泡スチロールで、サッシの窓枠等のコーナー部に宛てがうができるL字形に構成したサッシ用保護材も一部で使用されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記従来のサッシ用保護材は、いずれも繰り返し使用ができず、使い捨てとなることから、環境保護の観点や輸送コストの点で不十分なものとなっている。また、保護性能についても十分なものとはいえない。即ち、段ボールや発泡スチロールは折れたり割れたりしやすく、複数回の使用に耐えないばかりか、サッシの窓枠等と擦れ合うことで、これに擦過痕を付けやすいものである。

【0004】本発明は、上記従来の問題点にかんがみて

なされたもので、緩衝性能に優れていると共に、繰り返し使用に耐え、しかもサッシに擦過痕を付けにくいサッシ用保護材を提供することを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明は、上記目的のために、発泡倍率が5～45倍、圧縮強度が0.069～1.08MPaのポリオレフィン系ビーズ発泡体で、サッシの外枠のコーナーに宛てがうことができるL字形に構成されており、外枠へ宛てがわれる内側コーナー面

10 に、外枠の外周に突出する取付用フランジ部が差し込まれる差し込み溝が形成されており、内側コーナー面とは反対側の外側コーナー面には、外枠の周方向に巻き付けられる止めバンドを収容するバンド溝が形成されていることを特徴とするサッシ用保護材と、上記と同じポリオレフィン系ビーズ発泡体で、引き違い型又は扉型サッシの窓枠のコーナーに宛てがうことができるL字形に構成されており、窓枠へ宛てがわれる内側コーナー面に、窓枠のコーナー部を収容する受け凹部が形成されており、内側コーナー面とは反対側の外側コーナー面には、外枠の周方向に巻き付けられる止めバンドを収容するバンド溝が形成されていることを特徴とするサッシ用保護材とを提供するものである。

【0006】

【発明の実施の形態】まず、図1～図4に基づいて、本発明の一例に係るサッシ用保護材Aについて説明する。

【0007】本例のサッシ用保護材Aは、引き違い型サッシの外枠1に適したものである。本サッシ用保護材Aは、図1に示されるように、引き違い型サッシの外枠1の各コーナーに宛てがわれるもので、ポリオレフィン系ビーズ発泡体によってL字形に構成されている。

【0008】このサッシ用保護材Aを構成しているポリオレフィン系ビーズ発泡体は、ポリエチレン、ポリプロピレン、もしくはこれらを50重量部以上含有する共重合体のビーズを用いた発泡体で、発泡倍率が5～45倍、圧縮強度が0.069～1.08MPaであることが必要である。ポリオレフィン系ビーズ発泡体は、従来使用されている発泡スチロールに比して、表面が滑らかであると共に、腰が強く粘りがある。従って、擦れ合っても外枠1に擦過痕が付きにくく、しかも割れにくく、繰り返し使用に耐えることができる。本発明者等が試したところ、数十回の繰り返し使用に耐えることが確認されている。また、上記発泡倍率と圧縮強度は、優れた緩衝性能を得ると共に、後述する止めバンド（図示されていない）が食い込んでしまうのを防止するためのものである。

【0009】尚、他の例として後述するサッシ用保護材B、Cについても上記と同様のポリオレフィン系ビーズ発泡体で構成されているものである。

【0010】L字形をなすサッシ用保護材Aの外枠1へ宛てがわれる側の面である内側コーナー面には、図2に

明示されているように、細幅の差し込み溝2が2本平行して形成されている。この差し込み溝2は、外枠1の外周に、外枠1を建物に固定するために突出している取付用フランジ部3を差し込み保持するためのものである。

【0011】ところで、外枠1における取付用フランジ部3の位置は、メーカー等によって多少位置が相違する。また、引き違い型サッシの外枠1は、2枚の窓枠を引き違いに保持するために幅が広く、本サッシ用保護材Aの幅も必然的に広いものとなる。1本の差し込み溝2を設けたサッシ用保護材Aを、取付用フランジ部3の位置が相違する複数種類の外枠1に対して使用できるようする場合、取付用フランジ部3の位置が相違しても外枠1がサッシ用保護材Aからはみ出さないよう、サッシ用保護材Aの幅を更に広いものとすることが必要になる。しかし、本例のように、取付用フランジ部3の位置の違いに対応して、2本（3本以上とすることもできる。）の差し込み溝2を形成しておくと、サッシ用保護材Aの幅をさほど広げることなく、取付用フランジ部3の位置が相違する複数種類の外枠1に対して同じサッシ用保護材Aを使用することができる。

【0012】差し込み溝2は、図2～図4から明らかなように、断面V字形をなしており、しかもその長さ方向に沿って左右交互に、内側に平面円弧状の突出部4が突出している。この突出部4は、その前面（差し込み溝2の内側の面）が、断面V字形をなす差し込み溝2内に垂直に立っており、差し込み溝2の上端から深さ方向の中間部（好ましくは差し込み溝2の深さの1/2～2/3）に亘って突出している。このような突出部4を有する差し込み溝2とすると、メーカーの違い等によって取付用フランジ部3の厚さが多少違っても、各突出部4の弾性変形によって、差し込まれた取付用フランジ部3をその左右から確実に挟み付けることができる。

【0013】サッシ用保護材Aの外側コーナ一面（内側コーナ一面とは反対面）には、図1に示されるように、外枠1の四隅に本サッシ用保護材Aを宛てがった状態で、四隅の本サッシ用保護材A上から、外枠1の周方向に止めバンド（図示されていない）を巻き付けて本サッシ用保護材Aを外枠1に固定する際に、該止めバンドを収容してそのれを防止するための2条のバンド溝5が形成されている。また、このバンド溝5に直交する方向にも1条のバンド溝6が形成されている。このバンド溝6は、図1の状態において、上下に位置する左右のサッシ用保護材A上から外枠の前後方向に止めバンドを巻き付ける際に該止めバンドを収容するものである。

【0014】図5は、本発明の他の例に係るサッシ用保護材Bを示す斜視図で、上述したサッシ用保護材Aが引き違い型サッシの外枠1に対して適したものとなっているのに対して、特に扉型サッシの外枠（図示されていない）に対して適したものとなっている。使用形態は図1での説明と同様で、図1における外枠1を扉型サッシの

外枠に置き換えて、取付用フランジ部3を扉型サッシの外枠における取付用フランジ部に置き換えて当てはめればよい。従って、本サッシ用保護材Bも、上述のサッシ用保護材Aと同様に、突出部4が突出した差し込み溝2と、バンド溝5、6とを有するものとなっている。しかし、扉型サッシにおける取付用フランジ部は、メーカー等が相違してもほぼ一定の位置に突出されていることから、本サッシ用保護材Bにおける差し込み溝2は1条となっている。

10 10 【0015】図6は、本発明の更に他の例に係るサッシ用保護材Cを示す斜視図で、特に引き違い型又は扉型サッシの窓枠（図示されていない）に対して適したものとなっている。即ち、本サッシ用保護材Cは、窓枠へ宛てがわれる内側コーナ一面に、窓枠のコーナ一部を収容する受け凹部7が形成されたものとなっている。そして、この受け凹部7に窓枠のコーナ一部が差し込まれることで、窓枠のコーナ一部に安定した状態で宛てがうことができる用になっている。また、窓枠のコーナ一部が受け凹部7に差し込まれることで、窓枠の前後方向にはずれない構造となっているので、外側コーナ一面には、窓枠の周方向に巻き付けられる止めバンドを収容するバンド溝5のみが設けられている。

【0016】
【発明の効果】本発明は、以上説明した通りのものであり、高い緩衝効果が得られるだけでなく、繰り返し使用に耐え、しかも保護すべきサッシの各部と擦れ合っても擦過痕を付ける恐れがないものである。

【図面の簡単な説明】
【図1】本発明の一例に係るサッシ用保護材を引き違い型サッシの外枠の各コーナ一部二宛てがった状態を示す斜視図である。

【図2】図1に示されるサッシ用保護材の拡大斜視図である。

【図3】図2に示されるサッシ用保護材の差し込み溝付近の拡大断面図である。

【図4】図2に示されるサッシ用保護材を引き違い型サッシの外枠へ取り付けた状態を示す拡大断面図である。

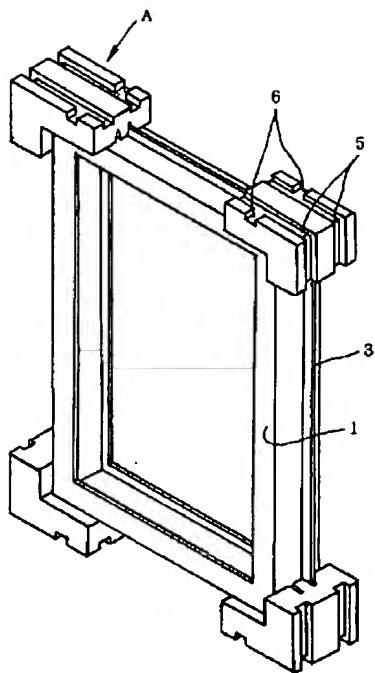
【図5】本発明の他の例に係るサッシ用保護材の斜視図である。

40 40 【図6】本発明の更に他の例に係るサッシ用保護材の斜視図である。

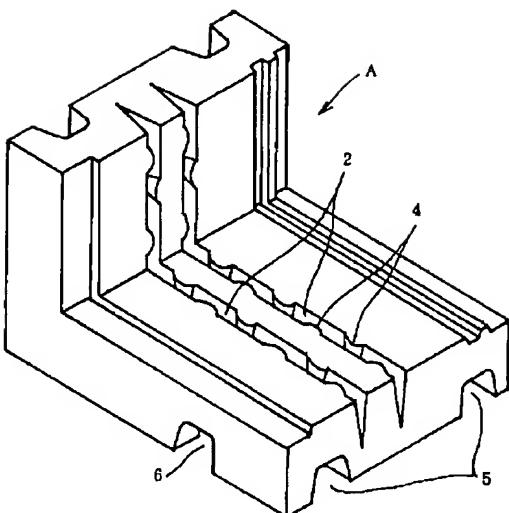
【符号の説明】

- 1 引き違い型サッシの外枠
- 2 差し込み溝
- 3 取付用フランジ部
- 4 突出部
- 5 バンド溝
- 6 バンド溝
- 7 受け凹部

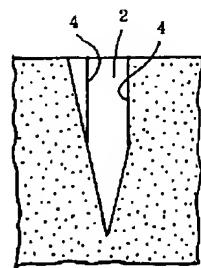
【図1】



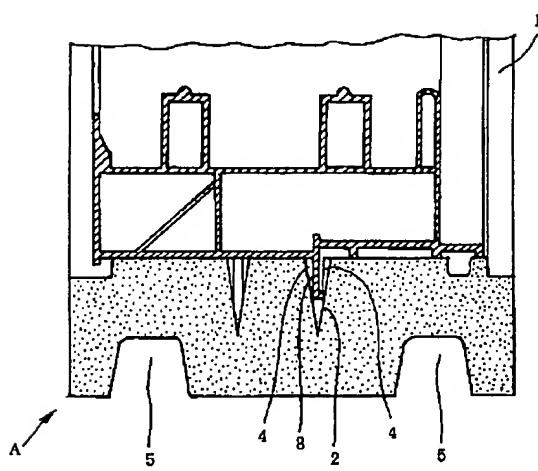
【図2】



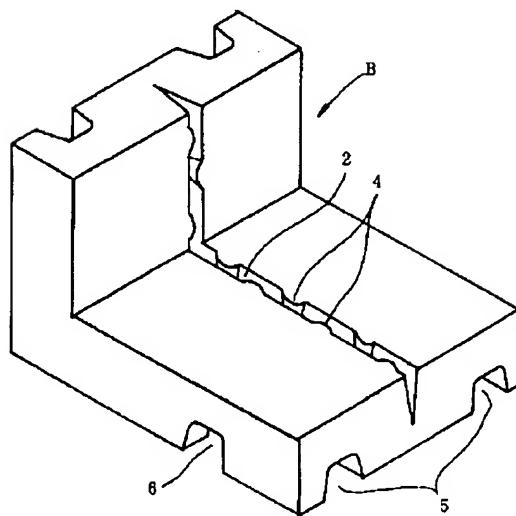
【図3】



【図4】



【図5】



【図6】

